

2016年9月8日 全8頁

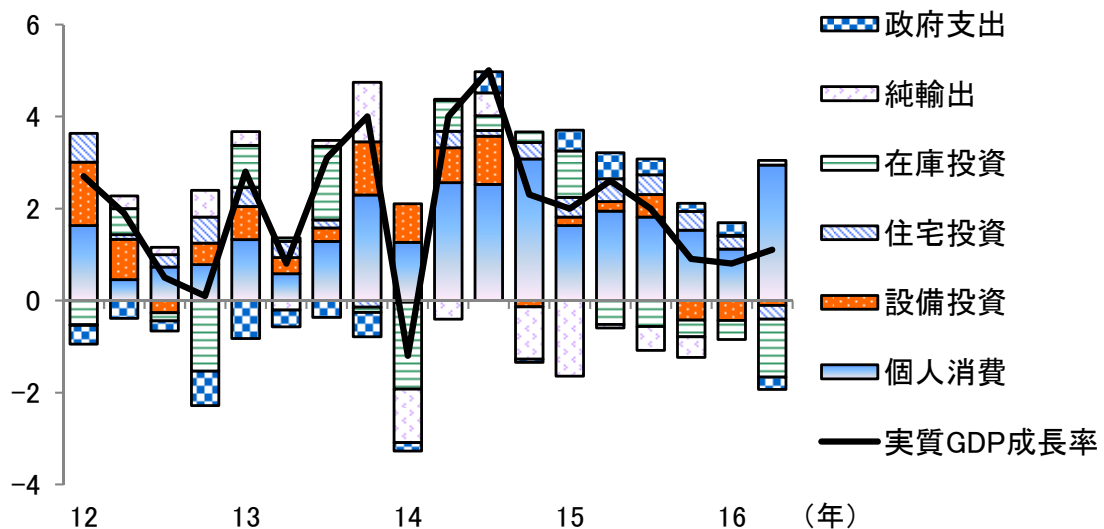
アメリカ経済グラフポケット (2016年9月号)

2016年9月6日発表分までの主要経済指標

ニューヨークリサーチセンター
上野 まな美
エコノミスト 橋本 政彦

実質GDPの推移

(前期比年率、%、%pt)



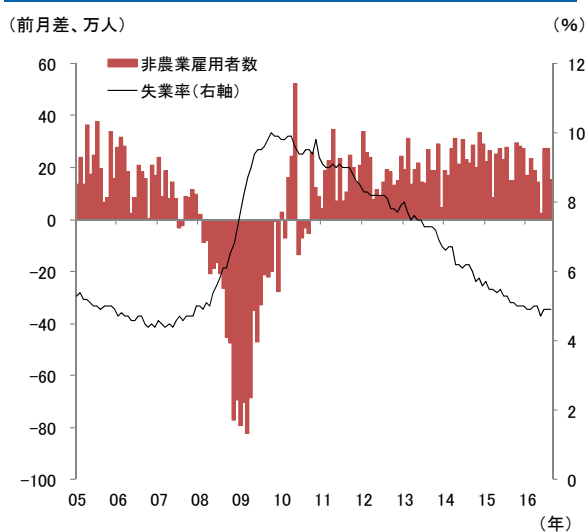
(前期比年率、%、%pt)	2014		2015				2016	
	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6
国内総生産	5.0	2.3	2.0	2.6	2.0	0.9	0.8	1.1
個人消費	3.7	4.6	2.4	2.9	2.7	2.3	1.6	4.4
設備投資	8.3	-1.1	1.3	1.6	3.9	-3.3	-3.4	-0.9
住宅投資	3.6	11.4	13.3	14.9	12.6	11.5	7.8	-7.7
政府支出	2.5	-0.4	2.6	3.2	1.9	1.0	1.6	-1.5
輸出	2.1	4.5	-5.8	2.9	-2.8	-2.7	-0.7	1.2
輸入	-1.2	11.2	5.6	2.9	1.1	0.7	-0.6	0.3
寄与度								
個人消費	2.5	3.1	1.6	1.9	1.8	1.5	1.1	2.9
設備投資	1.1	-0.1	0.2	0.2	0.5	-0.4	-0.4	-0.1
住宅投資	0.1	0.4	0.4	0.5	0.4	0.4	0.3	-0.3
在庫投資	0.3	0.2	1.0	-0.5	-0.6	-0.4	-0.4	-1.3
政府支出	0.5	-0.1	0.5	0.6	0.3	0.2	0.3	-0.3
輸出	0.3	0.6	-0.8	0.4	-0.4	-0.3	-0.1	0.1
輸入	0.2	-1.7	-0.9	-0.4	-0.2	-0.1	0.1	0.0

(出所) BEA, Haver Analyticsより大和総研作成

雇用環境¹

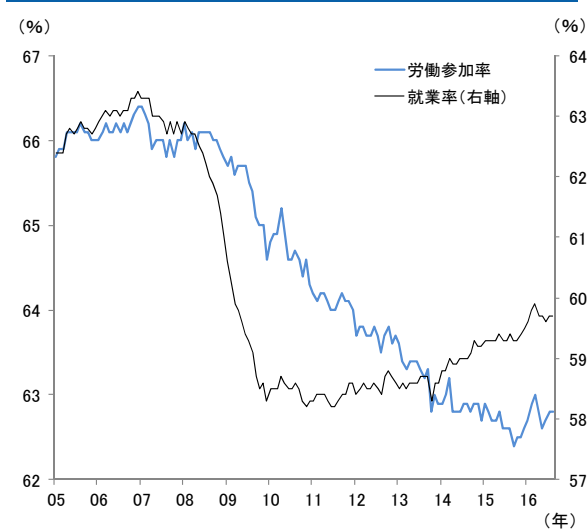
- ◆ 2016年8月の失業率は4.9%と、2ヵ月連続で前月から横ばいとなった。労働参加率も前月から横ばいとなり、全般的に改善は足踏みしている。
- ◆ 8月の非農業雇用者数の前月差は15.1万人増と前月から伸びが鈍化し、3ヵ月ぶりに好不調の目安とされる同20万人を下回った。非農業雇用者数の前月差の6ヵ月平均は17.5万人増であった。

非農業雇用者数と失業率



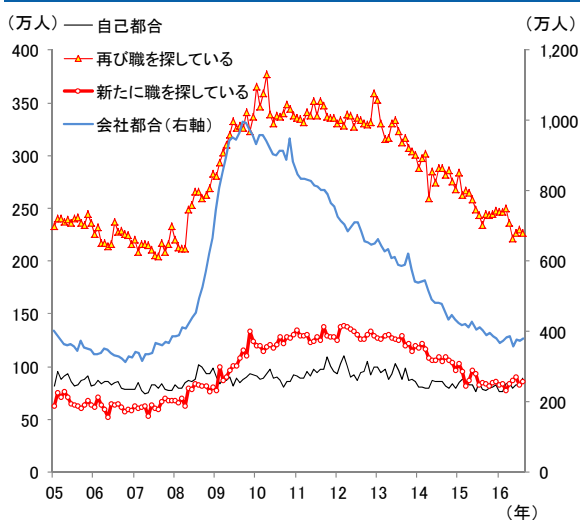
(出所)BLS, Haver Analyticsより大和総研作成

労働参加率と就業率



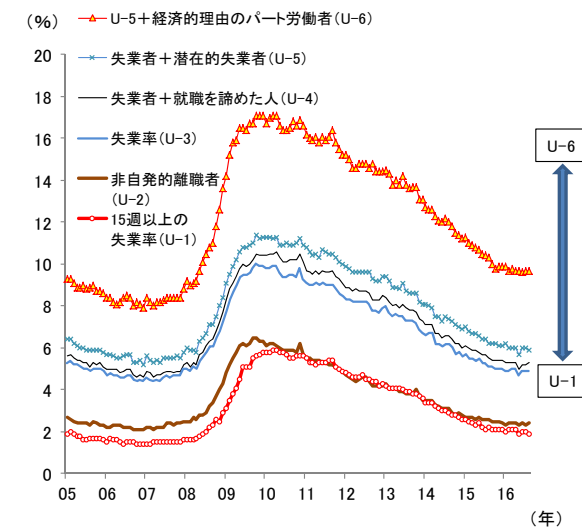
(出所)BLS, Haver Analyticsより大和総研作成

理由別失業者数



(出所)BLS, Haver Analyticsより大和総研作成

定義別失業率



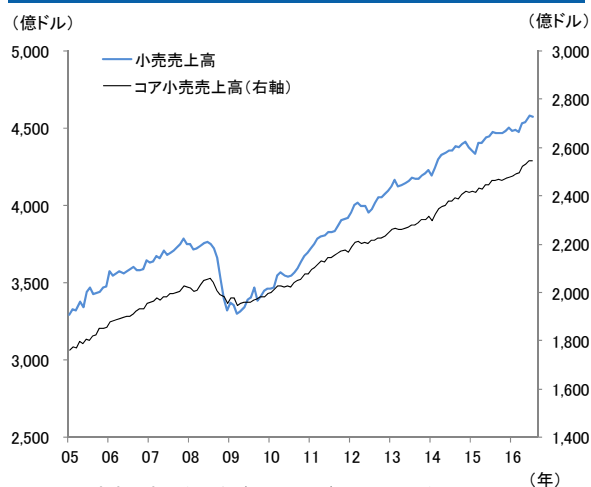
(出所)BLS, Haver Analyticsより大和総研作成

¹ 大和総研 ニューヨークリサーチセンター 橋本政彦「雇用、賃金の減速で9月利上げの可能性低下」（2016年9月5日）参照。http://www.dir.co.jp/research/report/overseas/usa/20160905_011219.html

個人消費

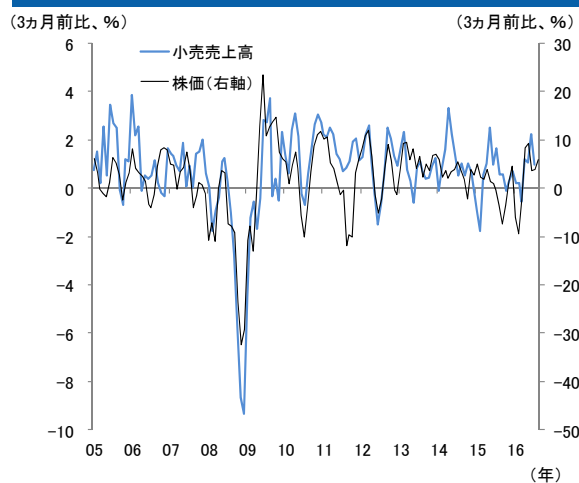
- ◆ 2016年7月の小売売上高は前月から横ばいとなり、コア小売売上高も前月とほぼ同水準であった。
- ◆ 8月の自動車販売台数は前月比5.0%減少し、年率換算で1,700万台であった。ライトトラック、乗用車ともに前月から販売が減少した。
- ◆ 8月のロイター/ミシガン大消費者センチメントは、前月の90.0から89.8へと低下した。前月から僅かに低下したものの、高い水準で推移している。

小売売上高の推移



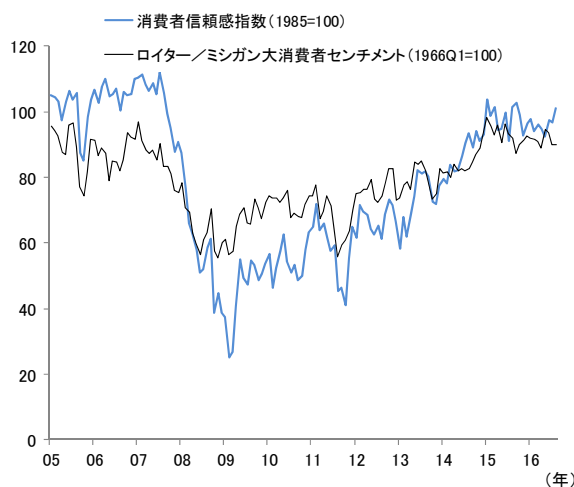
(注)コア小売売上高は自動車ディーラー、ガソリンスタンド、建材・園芸、飲食サービスを除く。
(出所)Census, Haver Analyticsより大和総研作成

消費と株価



(注)株価はWilshire5000。
(出所)Census, Dow Jones, Haver Analyticsより大和総研作成

消費者マインド



(出所)ロイター/ミシガン大, Conference Board, Haver Analyticsより大和総研作成

自動車販売台数



(出所)Autodata, Haver Analyticsより大和総研作成

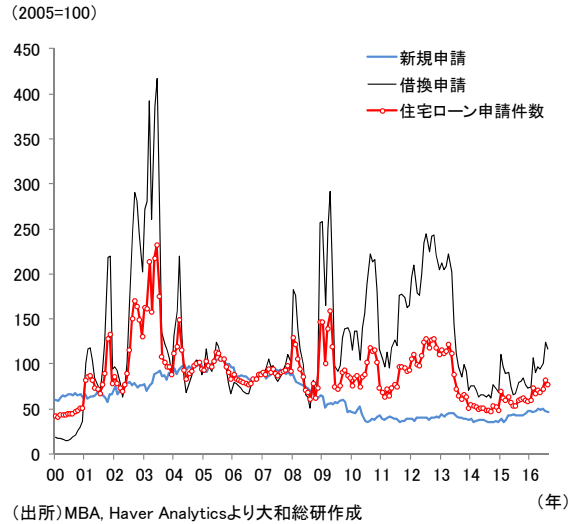
住宅市場

- ◆ 2016年7月の新築住宅着工（一戸建てと集合住宅を含む）は、前月比2.1%増の年率換算121.1万戸であった。一戸建てと集合住宅がともに増加し、特に集合住宅の伸びが大きかった。
- ◆ 7月の中古住宅販売（一戸建て）は、前月比2.0%減の年率換算482.0万戸であった。5ヵ月ぶりの減少となったものの、高水準を維持している。
- ◆ 7月の新築住宅販売（一戸建て）は前月比12.4%増と大幅に増加し、年率換算65.4万戸となった。5ヵ月連続で増加し、2007年10月以来の高水準となった。
- ◆ 6月のケースシラー住宅価格指数（20都市）は前月比0.1%低下した。3ヵ月連続で低下し、上昇傾向が続いていた住宅価格に足踏みが見られている。

住宅販売（一戸建て）



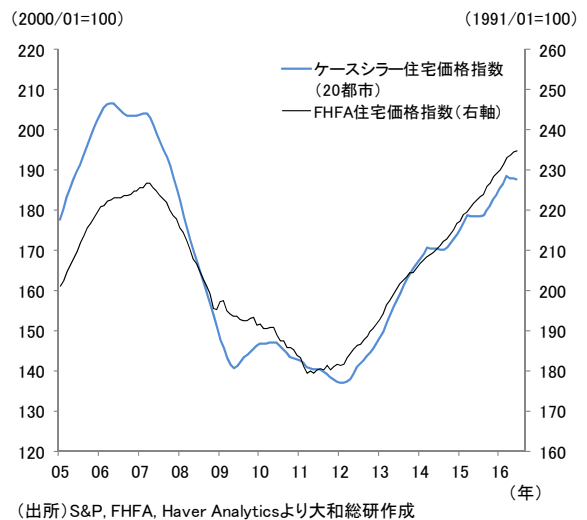
住宅ローン申請件数



住宅着工と建設業者の景況感



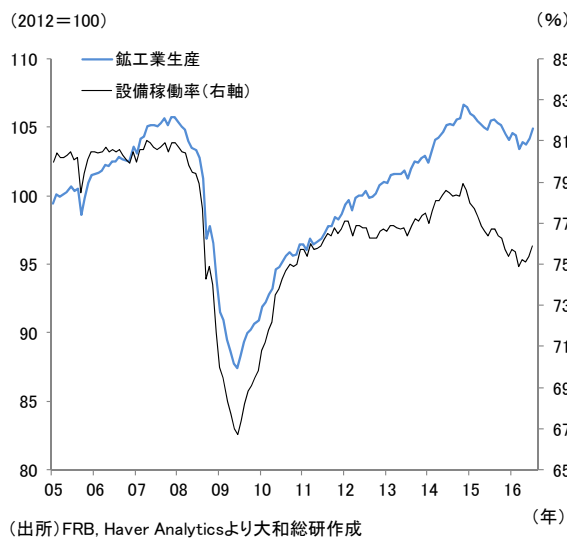
住宅価格



企業動向

- ◆ 2016年7月の鉱工業生産指数は前月比0.7%上昇し、2014年11月以来の大幅な上昇率となった。指数全体の約8割を占める製造業（SICベース）は、耐久財、非耐久財の双方で生産が増加し、同0.5%上昇した。
- ◆ 7月の国防・民間航空機を除く資本財受注（コア資本財受注）は、前月比1.5%増加した。増加幅が拡大し、2ヵ月連続の増加となった。
- ◆ 8月のISM製造業指数は49.4%と前月から3.2%ポイント低下した。基準となる50%を下回ったのは、2016年2月以来である。非製造業指数も4.1%ポイント低下し、51.4%となった。

鉱工業生産と設備稼働率



企業の景況感



製造業の出荷・在庫



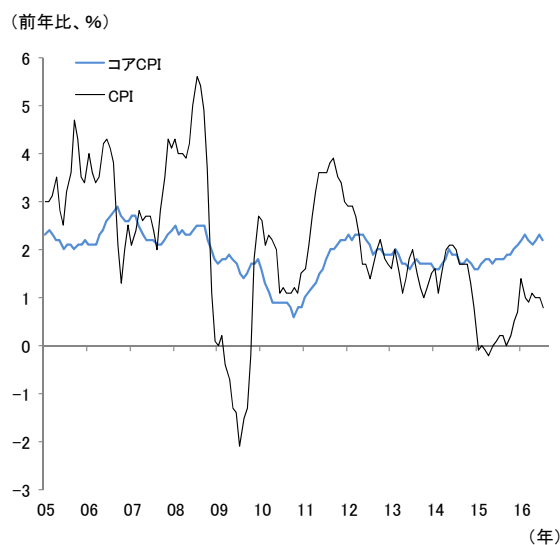
耐久財受注



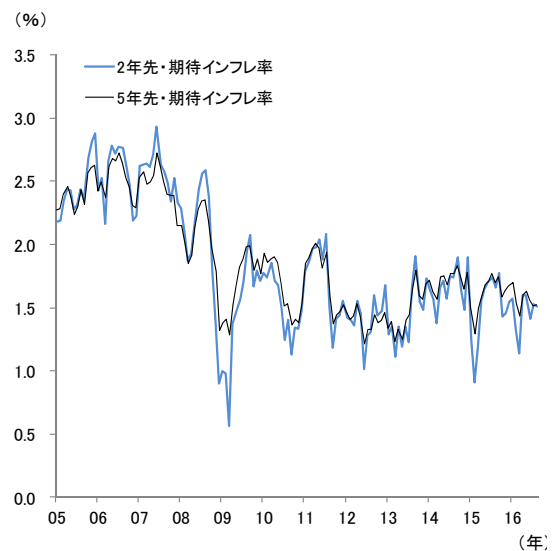
物価動向

- ◆ 2016年7月のCPI（消費者物価指数）は前年比0.8%上昇した。インフレ率はFRBの長期目標である2%を下回る推移が続いている。コアCPIは同2.2%上昇した。
- ◆ 8月の2年先期待インフレ率は1.51%と前月から低下したが、5年先期待インフレ率は1.52%で前月から上昇した。
- ◆ 8月末のWTI原油先物価格は44.70ドル/バレルで、7月末の41.60ドル/バレルから上昇した。

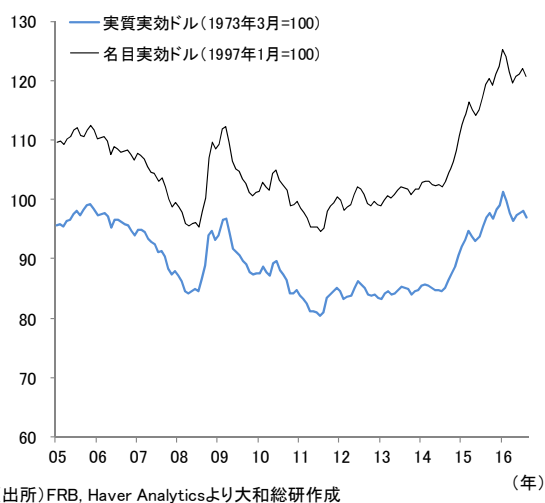
消費者物価指数



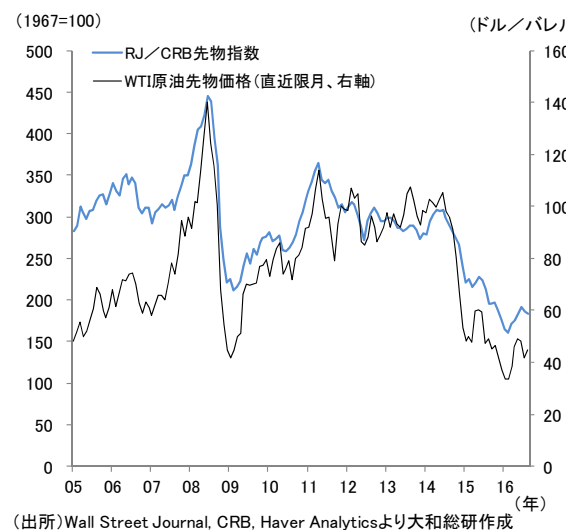
期待インフレ率



実効為替レート(ブロード)



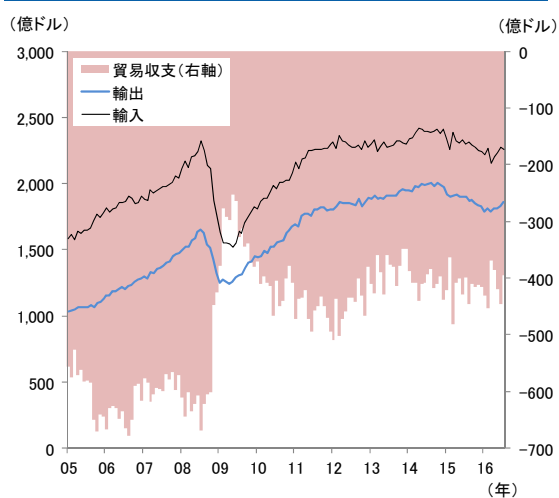
コモディティ価格



輸出入・経常収支

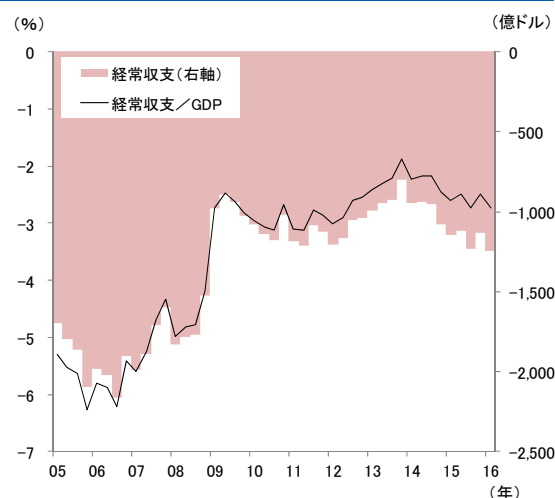
- ◆ 2016年7月の貿易収支（財・サービス）は、輸出が前月比1.9%増加し、輸入は同0.8%減少した。この結果、貿易赤字は前月比11.6%減の約395億ドルとなり、4ヵ月ぶりに縮小した。
- ◆ 輸出入（財）を商品別に見ると、輸出では食品・飼料・飲料の分野で大豆や飼料が増加した。輸入では医薬品や携帯電話といった消費財の減少が全体を押し下げた。
- ◆ 地域別（財）では、中国への輸出が前年比3.7%減少したほか、日本向けが同1.8%減少、欧州向けも同1.2%減少した。輸入は、日本からの輸入が同2.7%増加した一方で、中国からの輸入は同4.2%減少、欧州からの輸入は同6.3%減少した。

貿易収支動向



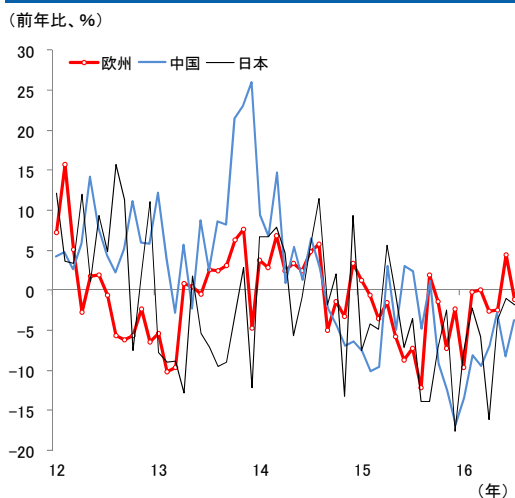
(出所) Census, Haver Analyticsより大和総研作成

経常収支の推移



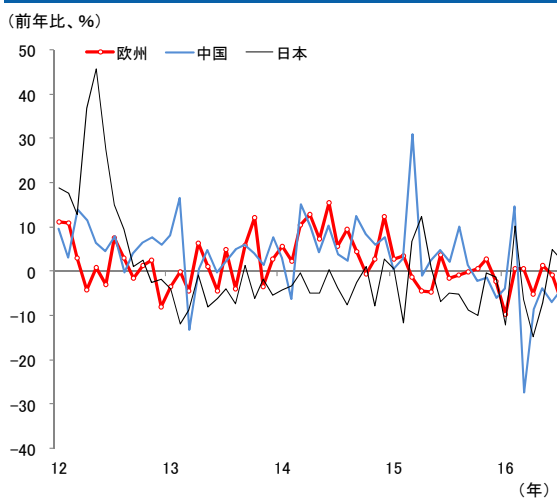
(出所) BEA, Haver Analyticsより大和総研作成

国・地域別輸出動向



(出所) Census, Haver Analyticsより大和総研作成

国・地域別輸入動向

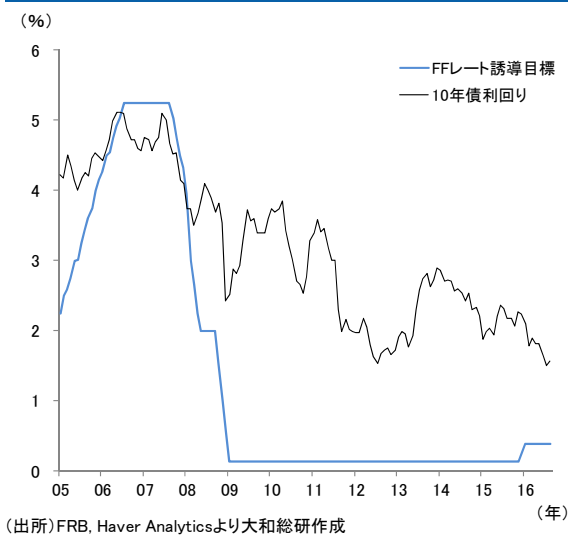


(出所) Census, Haver Analyticsより大和総研作成

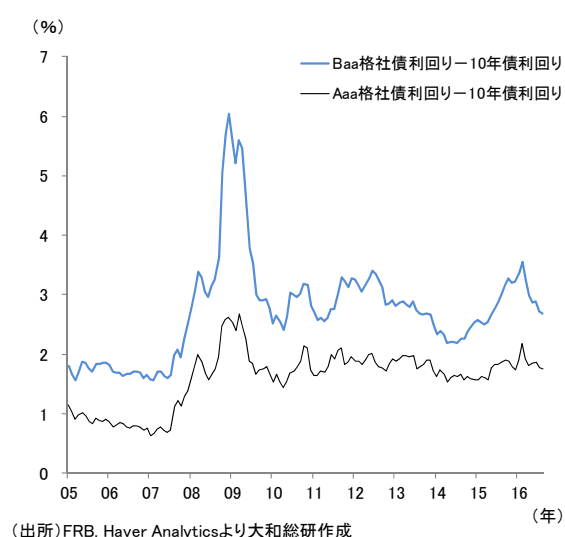
金融・財政

- ◆ 2016年7月のFOMC（連邦公開市場委員会）において、政策金利であるFF（フェデラルファンド）レートの目標レンジは据え置かれた。また、保有する資産規模については、現在の水準を維持することが決定された。FRBの資産残高は、直近の8月31日の週平均が約4兆5,000億ドルであった。
- ◆ 8月の長期金利（10年債利回り）の平均値は1.56%となった。ジャクソンホールで行われたシンポジウムにおけるイエレンFRB議長の発言後、年内の利上げ観測が高まったことから、前月より若干上昇した。
- ◆ 連邦政府の財政収支（12ヵ月平均）は、トレンドとして赤字幅が縮小してきたが、このところ足踏みが見られている。

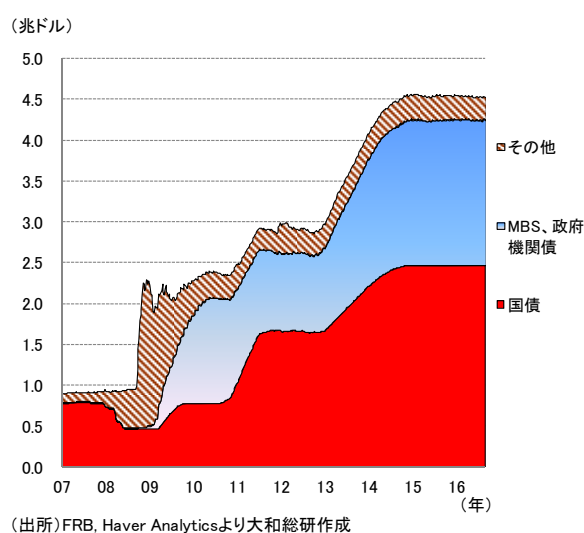
政策金利・長期金利



クレジットスプレッド



FRBの資産構成



連邦政府の財政収支

